新旧対照

英語の新旧比較

現行（小・中：平成29年告示、高：平成30年告示）と、次期（審議まとめの方向性）を27項目で比較。上のボタンで校種を絞り込めます。

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

目標の柱書（学習の進め方）

現行

外国語による
聞くこと、
読むこと、
話すこと、書く
ことの
「~~言語活動を~~
~~通して~~」資質・
能力を育成する
（高校は
「統合的な
言語活動」
も）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、「**コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して**」育成する。

資料(外①)P1　P279

英語の目標（高校は科目目標）の示し方

現行

3つの柱で分けず、5つの領域（聞く・読む・話す[やり取り]・話す[発表]・書く）別にCAN-DO形式で示す。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

外国語の目標と同じく「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の**3つの柱**で示す。領域別の要素は**「内容」へ**。

P276 P279 P280 資料(外⑯)P16

学年ごとの目標

現行

各学校が「~~学年ごとの目標を適切に定め~~」ることになっている（小：2学年間、中：3学年間を通じて目標の実現を図る）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

学習指導要領が段階的な内容を示すので、学年ごとの目標の**一律の作成義務はなくし**、必要な場合に**任意で作る**方向（審議まとめの案）。

P280 資料(外⑲)P19 現行現行抜粋P6・P15・P25

見方・考え方

現行

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、~~社会や世界、他者との関わり~~に着目して捉え、目的や場面、状況等に応じて、~~情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること~~（101字）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを、**文化の違いや社会及び相手との関わり**に着目して捉え、**多様な他者の考えを受け止める**とともに、**表現等を工夫して**自らの考えを伝え、**相互理解を図ること**（91字）。

P279 資料(外⑦)P7

学びに向かう力、人間性等（中学校の目標）

現行

外国語の~~背景にある文化に対する理解を深め~~、~~聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら~~、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

コミュニケーションなどに**興味・関心を持ち**、他者との**対話・協働**を通して考えを広げたり深めたりするとともに、**自らの学習を調整して**、他者との**相互理解を深めようとする**態度を養う。

P279　資料(外⑥)P6

学びに向かう力、人間性等（高校の目標）

現行

文化に対する理解を深め、聞き手等に配慮しながら、~~主体的、自律的に~~外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

中学校の内容に加えて「**外国語の習得に継続して取り組もうとする**態度」を養う。

資料(外⑥)P6

知識及び技能の目標の書き方

現行

外国語の~~音声や語彙、表現、文法、言語の働きなど~~を理解し、聞く・読む・話す・書くことによる実際のコミュニケーションで活用できる技能（中）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**外国語の特徴やきまり**」を理解し、実際のコミュニケーションで活用できる技能。各言語材料や領域の列挙は目標から省いて短くする。

資料(外②)P2

目標で扱う話題

現行

中・高の目標に「~~日常的な話題や社会的な話題~~について」と書く。
小学校外国語活動は「~~身近で簡単な事柄~~」。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

目標では中学校「**様々な話題**」、高校「**幅広い話題**」とし、具体的な話題は「内容」で示す。
小学校外国語活動は「**ごく身近な事柄**」、外国語は「身近な事柄」。

資料(外③)P3

中学校の話題

現行

「~~社会的な話題~~」（解説では、エネルギー問題、環境問題、世界情勢、科学技術、平和問題、人権問題など難しいものが多く例示）。学年別の区分がなく、難易度が混在。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**身近な社会的な話題**」（例：健康的な食生活、スクリーンタイム、皆が過ごしやすい学校づくり）。**中1相当**→中3相当と、身近なものから少しずつ抽象的なものへ。

P283 資料(外⑳)P20 資料(外㉚)P30 現行現行抜粋P19

高校の話題

現行

日常的な話題や~~社会的な話題~~。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

中高の接続を考え、「**身近なものを含む社会的な話題**」とする。

資料(外㉒)P22 資料(外㊺)P45

活動の名前

現行

~~言語活動~~

→

次期（審議まとめの案・告示前）

コミュニケーション活動（主に思・判・表を育てる）と
コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育てる）

P277 P279 P284 資料(外㉛)P31

言語の使用場面

現行

「内容」の中に「~~言語の使用場面の例~~」として示す。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**指導計画の作成と内容の取扱い**」に移し、「**コミュニケーションの場面**」として例示する。

P280 資料(外⑯)P16 資料(外㊲)P37

言語の働き

現行

「内容」の中に「~~言語の働きの例~~」として示す。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**コミュニケーションの意図（仮称）**」として例示する（例：相手との関係を円滑にする・気持ちを伝える／事実・情報を共有する・相手の行動を促す／考えや意図を共有する）。知・技の指導での扱い方も示す。

P280 資料(外㊲)P37

「内容」に入るもの

現行

知・技（言語材料）、思・判・表、~~言語活動及び言語の働きに関する事項~~（言語活動・使用場面・働きの例）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「内容」は**資質・能力に限る**。思・判・表は「**総合的な発揮**」と領域ごとの「話題・条件・できること」、知・技は「**統合的な理解**」と英語の特徴やきまりに関する事項。活動の例は「指導計画の作成と内容の取扱い」へ。

資料(外⑯)P16　資料(外㊹)P44

思考力、判断力、表現力等の示し方

現行

~~5つの領域別の目標~~と、それを大まかにまとめた「内容」の思・判・表。重なりがあり、深まりが見えにくい。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「総合的な発揮」をCEFRの分類（Reception・Production・Interaction）を参考に【**理解する**】【**表現する**】【**伝え合う**】に分け、領域ごとの内容は学年段階の目安つきで示す。

P280　資料(外⑧)P8

高校の科目名

現行

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ／~~論理・表現~~Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

→

次期（審議まとめの案・告示前）

英語コミュニケーション（総合）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ**（仮称）**／**英語コミュニケーション（発信）**Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ**（仮称）**

P281　P80　資料(外㉔)P24

高校の単位数

現行

英コミュⅠ3（必履修、2単位まで減可）、Ⅱ4、Ⅲ4、論理・表現Ⅰ2、Ⅱ2、Ⅲ2。1単位＝~~35~~コマ。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

英コミュ（総合）Ⅰ6（必履修）、Ⅱ8、Ⅲ8、英コミュ（発信）Ⅰ4、Ⅱ4、Ⅲ4（**新単位**）。1**新単位**を**17コマ**として細分化するため、表示上の標準単位数は約2倍になる。科目ごとの標準的な学習量は現行とおおむね同程度（1単位35コマの半分は17.5コマだが**17コマ**とするため、コマ数はわずかに減る）。

P80 P81 P82 資料(外㉔)P24 現行標準単位数表

語彙

現行

~~語数の目安だけ~~（小600～700語、中1,600～1,800語程度の新語、高1,800～2,500語程度、合計4,000～5,000語）。リストはない。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

国が**基盤語彙リスト**を作り、教科書でリストの語を使うよう推奨。指導すべき語彙数も**精選**を含めて見直す（合計は「●語程度」とされ未定）。

P283 資料(外㉙)P29 現行現行抜粋P11・P21・P3

中学校の文法

現行

前回改訂で、感嘆文のうち基本的なもの、現在完了進行形、仮定法のうち基本的なものなどを追加。教科書に難しい用法も含まれる。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

使用頻度の高いものなどを本文で具体的に明示し、指導の対象を絞り、難易度を適正化する。

P277 P283 現行中学校解説外国語編P13

AIの扱い

現行

学習指導要領にAI活用の位置付けがない。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

デジタル学習基盤の活用を明記し、その一つとして発達の段階に応じた**AIの適切な活用**を書く。**人間同士のコミュニケーション**を充実させるという原則を明確に。

P277 P278 P282

評価規準の作り方

現行

各学校が①内容のまとまりごとの評価規準、②単元の目標、③単元の評価規準を作る。外国語は領域別目標が3つの柱で整理されておらず、作業が煩雑。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

内容のまとまりごとの評価規準例は**国が示し**、学校の**作成は不要**。外国語の「内容のまとまり」は**5つの領域**とする方向。単元の目標が**そのまま評価規準**になるようにし、「内容」を基に作る。

P285 資料(外㊳)P38 資料(外㊴)P39

高校必履修科目の履修免除

現行

仕組みなし（外部検定の学修成果を単位認定する制度は36単位まで）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

外部試験を使った**免除・振替**の制度運用を開始することが適当とされた（審議まとめの案）。英語はCEFR **B2レベル相当以上**が目安とされたが、3つの要件をすべて満たす必要があり、具体的な試験や級は今後解説等で定める。免除対象は英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称）。

P48 P49 P284

授業の言語と母語使用

現行

中・高とも「授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いる」。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「授業を生徒の理解に応じた英語で行うこと」を**堅持**。表現集・動画を国が提供し、教師の**補助的な日本語使用**やAI活用も含めた**母語使用**の考え方を解説で示す。

P284 現行現行抜粋P26・P46

「練習」という語

現行

本文に「言語材料について理解したり~~練習~~したりするための指導を必要に応じて行う」などの記述がある（高校の音声指導も「発音~~練習~~など」）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「練習」という文言は使わずに必要な活動を書く（例：音声指導は「**コミュニケーション活動を支える活動**などを通して」）。

P284 資料(外㉗)P27 現行現行抜粋P26

論理・表現（発信）の活動

現行

スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、まとまりのある文章を書くことなど。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

これらに加えて「**日常的な会話**」を扱う。「書くこと」に**やり取り**（オンライン上で書いて伝え合う）を位置付け、論理の構成・展開を充実。

資料(外㉒)P22 資料(外㉓)P23 資料(外㊻)P46

小学校外国語の思・判・表の目標

現行

音声で十分に慣れ親しんだ語彙や基本的な表現を「~~推測しながら~~読んだり、~~語順を意識しながら~~書いたり」して伝え合う基礎的な力。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「推測しながら」「語順を意識しながら」は「**内容の取扱い**」で示し、目標は「読んだり書いたりして、伝え合うことができる基礎的な力」と短くする。

資料(外③)P3

教材に関する留意事項（文化）

現行

多様な考え方への理解、我が国の文化や英語の背景にある文化、国際理解の観点。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

これらに「**多様性の包摂**」「**多文化共生**に対する理解」を加え、話題・活動にも明示する。

P282 資料(外㉕)P25 資料(外㉖)P26 資料(外㉗)P27

目標の新旧対照表

校種	観点	現行	次期のイメージ
小学校外国語活動	柱書	見方・考え方を働かせ、聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成。	コミュニケーシ素地となる資質コミュニケーシそれを支える活通して育成。 資
小学校外国語	柱書	聞く・読む・話す・書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成。	コミュニケーシ基礎となる資質コミュニケーシそれを支える活通して育成。 資
中学校	柱書	言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成。	コミュニケーシ資質・能力を、コミュニケーシそれを支える活通して育成（中文）。 資料(外①)

校種	観点	現行	次期のイメージ
高等学校	柱書	言語活動及び統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりする資質・能力を育成。	中学校と同じ文違いは3つの柱の示す。 資料(外①
小学校外国語活動	知識及び技能	言語や文化を体験的に理解し、日本語と外国語の音声の違い等に気付き、音声や基本的な表現に慣れ親しむ。	言語や文化を体理解し、音声や表現に慣れ親し違いへの気付きで)。 資料(外②
小学校外国語	知識及び技能	音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて日本語との違いに気付き理解し、読む・書くことに慣れ親しみ、基礎的な技能を身に付ける。	外国語の特徴や理解し、読むことに慣れ親しコミュニケーシ活用できる基礎身に付ける。 資
中学校	知識及び技能	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、4技能による実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付ける。	外国語の特徴や理解し、実際のコミュニケーシ活用できる技能付ける。 資料(外
高等学校	知識及び技能	理解を深め、目的や場面、状況などに応じて適切に	外国語の特徴や理解を深め、実コミュニケーシ

校種	観点	現行	次期のイメージ
		活用できる技能を身に付ける。	活用できる技能付ける。 資料(外
小学校外国語活動	思考力、判断力、表現力等	身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして考えや気持ちを伝え合う力の素地。	ごく身近な事柄聞いたり話した気持ちを伝え合素地。 資料(外③
小学校外国語	思考力、判断力、表現力等	目的・場面・状況に応じ、身近で簡単な事柄について聞いたり話したり、推測しながら読んだり語順を意識しながら書いたりして伝え合う基礎的な力。	目的・場面・状身近な事柄につ聞いたり話した十分に慣れ親し表現を読んだり伝え合う基礎的 資料(外③)P3
中学校	思考力、判断力、表現力等	日常的な話題や社会的な話題について、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりする力。	様々な話題につ情報や考えなど理解したり表現伝え合ったりす 資料(外③)P3
高等学校	思考力、判断力、表現力等	日常的な話題や社会的な話題について、概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりする力。	幅広い話題につ考えなどを的確適切に表現した伝え合ったりす 資料(外③)P3
小学校外国語活動	学びに向かう力、人間性等	言語やその背景にある文化への理解を深め、相手に	コミュニケーシ興味・関心を持粘り強く自分の

校種	観点	現行	次期のイメージ
		配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度。	気持ちを伝え、理解しようとす 資料(外⑥)P6
小学校外国語	学びに向かう力、人間性等	外国語の背景にある文化への理解を深め、他者に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度。	興味・関心を持協働で考えを広自らの学習を調他者との相互理図ろうとする態 資料(外⑥)P6
中学校	学びに向かう力、人間性等	文化への理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度。	興味・関心を持協働で考えを広自らの学習を調他者との相互理深めようとする 資料(外⑥)P6
高等学校	学びに向かう力、人間性等	文化への理解を深め、聞き手等に配慮しながら主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度。	中学校の内容に他者との相互理外国語の習得に取り組もうとす 資料(外⑥)P6

資料編の外①（柱書）、外②（知識及び技能）、外③（思考力、判断力、表現力等）、外⑥（学びに向かう力、人間性等）の「現状」と「改善イメージ」の対照表を要約した。いずれも外国語の目標で、「告示や解説を示すにあたり引き続き検討」と注記されている。英語の目標・高校の科目目標のイメージは外㊶〜㊽にある。

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。